

2021年11月6日(土)

(16)

コロナ影響アンケートへ

羽咋市と金沢 5000人抽出、政策に反映

羽咋市と金沢大は、新型コロナウイルスの市民生活への影響を調べ今後の政策に生かすため、市民五千人にアンケートをする。二〇一九年に四十歳以上の全市民一万五千人に共同で行ったアンケートの追跡調査で、コロナ前とコロナ禍での健康や経済状況、日常生活の変化を尋ねる。

(松村裕子)

前回アンケートを送った中から五千人を無作為抽出する。項目は全三十一問で回答は選択式。健康状況や健康づくり、外出頻度、地域行事への参加など前回と同じ質問のほか、コロナ疲れや人生の満足度、経済状況など新しい質問もある。「運動の機会が減ったか」「メールでのやりとりが増えたか」「友人との関

係が疎遠になったか」「家族で過ごす時間が増えたか」などコロナによる変化を問う。

同意を得られた人は、前回の回答や市が所有する健診結果や医療費などのデータと結び付けて分析する。無記名だが、封筒の番号で照合する。十一月末までに回収し、本年度内にまとめ、結果は来年、報告会で

発表する。市は三年度予算に反映させるほか、注意喚起など予算なしでできる

施策はすぐに実施する方針。

一九年のアンケートでは、約六千三百人が回答し、約五千人が同意した。大学の担当者は「健康や長寿についてコロナによる変化が分かるという。できればアンケートは定期的に続けたい」としている。